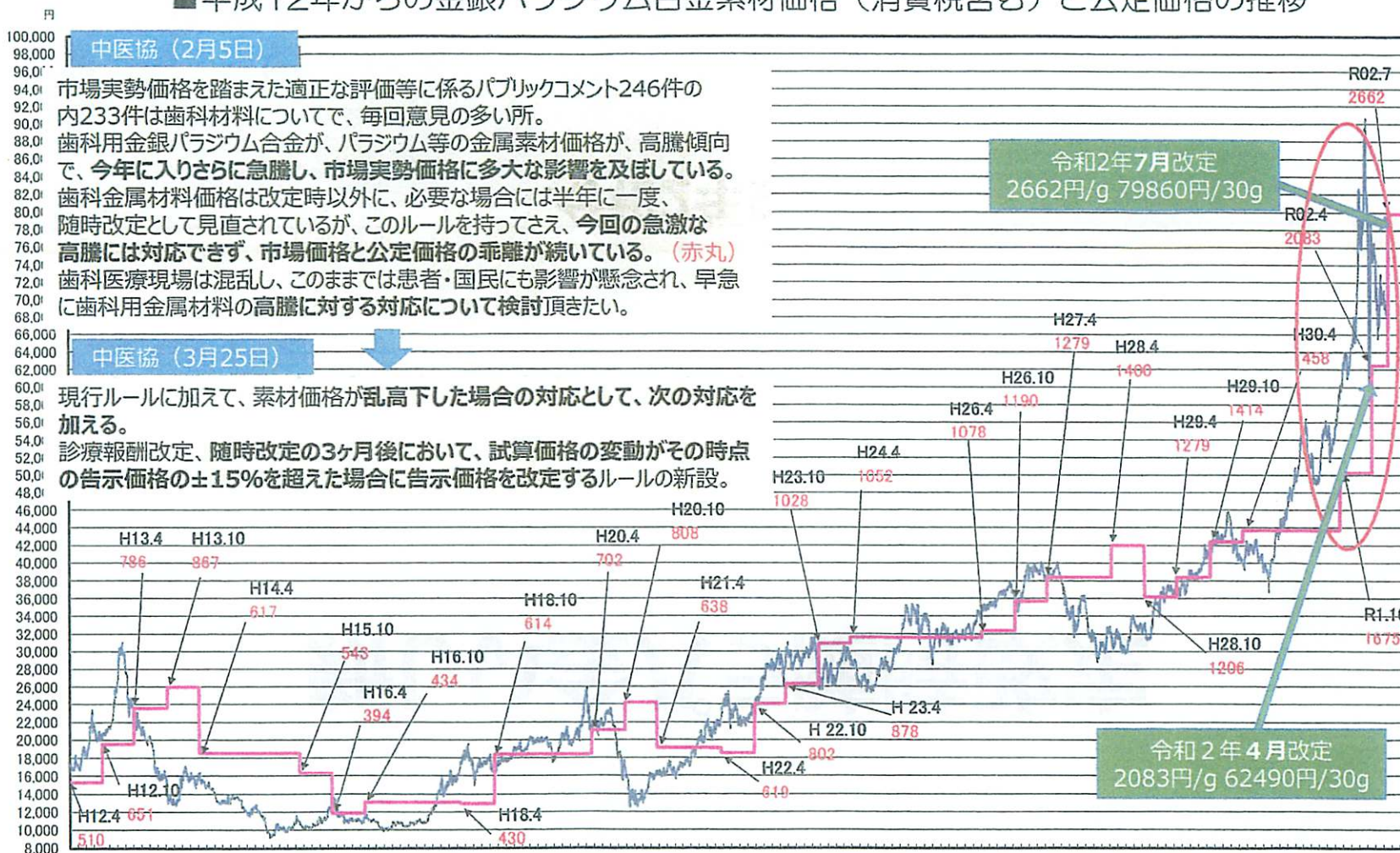


# 新しい金パラ随時改定

## ■平成12年からの金銀パラジウム合金素材価格（消費税含む）と公定価格の推移

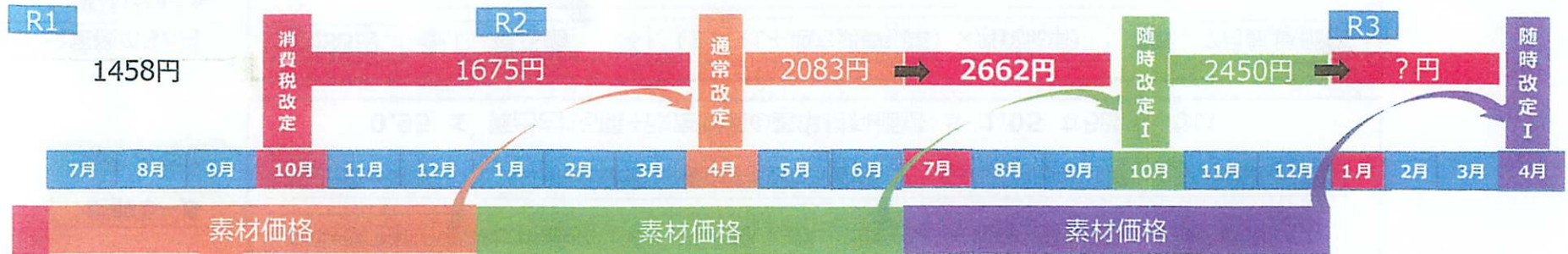


Q:課題は？

A:投機対象となる材料を保険医療材料に据えている事や、20年のロングスパンで見ても、価格上昇傾向が強く、国民負担が増えている事

Q:代替材料等の対応は？

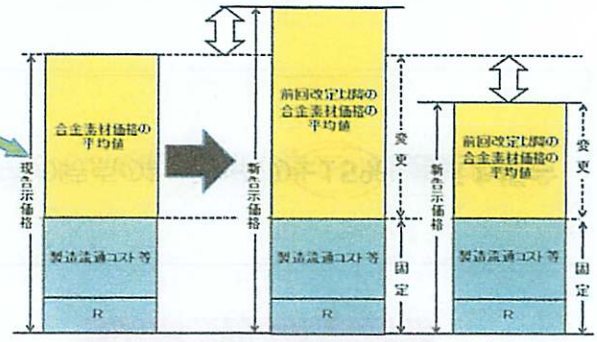
A:「自由診療技術を保険収載する事へのコンセンサス」「適切な技術評価を得るための理論構築」等の課題  
 →CAD/CAMの応用拡大（同時に、切削量やケース限定の問題）



価格調査

通常改定

臨時改定



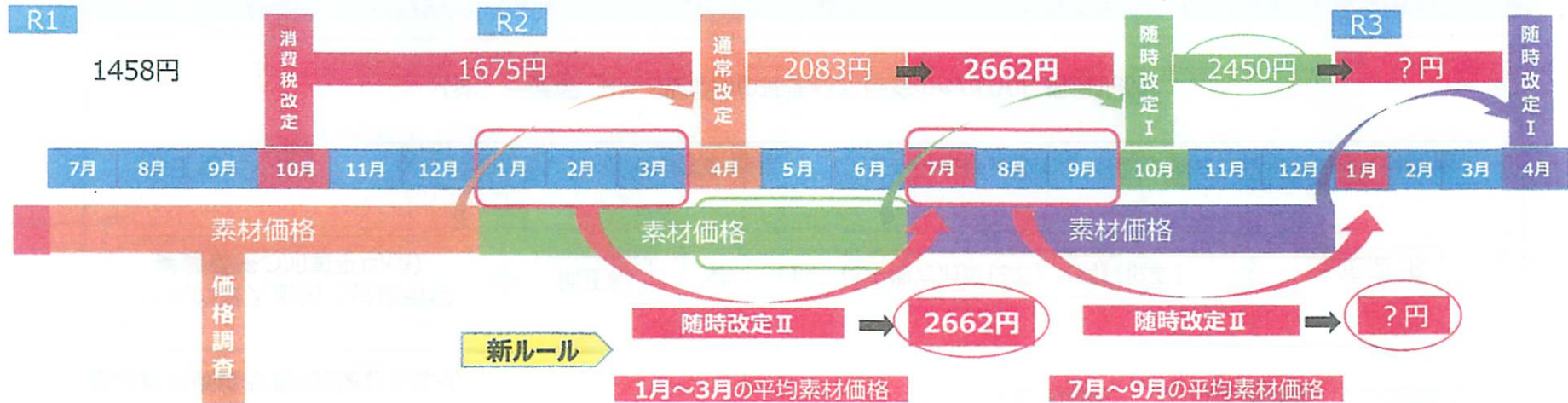
## 基準材料価格改定時における算式

$$\left[ \text{平均的購入価格（税抜市場実勢価格の加重平均値）} + \text{補正幅} \right] \times \left[ 1 + (1 + \text{地方消費税率}) \times \text{消費税率} \right] + \text{一定幅 R}$$

補正幅 = X - Y  
 X = 前回改定以降の平均素材価格  
 Y = 材料価格調査の調査対象月における平均素材価格

(注) 一定幅 Rは、改定前の基準材料価格の4/100に相当する額

**【素材価格】** = 平均素材価格（計算に用いる調査期間における金、銀、及びパラジウムのそれぞれの平均国際取引価格に金パラの定められた含有比率を乗じて、計算上求めた価格）（Au12%、Pd20%、Ag46%、Cu20%）  
**【実勢価格】** = 市場実勢価格（改定年度前年9月に実施される医療機関等の購入価格の加重平均価格）



- 新たな仕組み**
- ① 素材価格が乱高下した場合の対応として、現行のルールに次の対応を加える
  - ② 具体的には、診療報酬改定、随時改定の3月後において、素材価格の変動幅がその時点の告示価格の±15%を超えた場合に告示価格を改定する
  - ③ 名称は、現行の随時改定を随時改定Ⅰ、新ルールを随時改定Ⅱとする

**随時改定Ⅰ、Ⅱ時における算式**

<p>従前ルール</p> <p>随時改定Ⅰ</p>	$\text{随時改定前の基準材料価格} + \text{補正幅} \times [1 + (1 + \text{地方消費税率}) \times \text{消費税率}]$ <p>補正幅 = X - Y    X = 前回改定以降の平均素材価格    Y = 前回改定で用いた平均素材価格</p> <p><math>0.95 \leq \text{算出される額} \div \text{改定時前の基準材料価格} \leq 1.05</math> なら改定しない</p>
<p>改定後の3ヵ月</p> <p>従前に加えた新ルール</p> <p>随時改定Ⅱ</p>	$2083\text{円} + \text{補正幅} \times [1 + (1 + \text{地方消費税率}) \times \text{消費税率}] = \text{7月試算価格}$ <p><math>7\text{月試算価格} \div 2083\text{円} = 0.85 \sim 1.15</math> 以外 → 発動</p> <p><math>0.85 \leq \text{算出される額} \div \text{改定時前の基準材料価格} \leq 1.15</math> なら改定しない</p>